

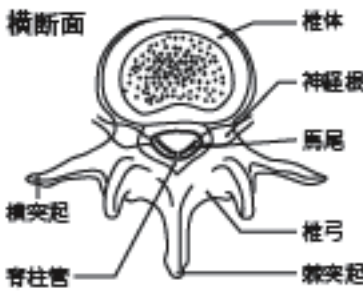


香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑥9

慢性痛とペインクリニック

■プロフィール こうそがべ・よしのり 昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に、平成16年から現職。日本麻酔学会指導医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みの治療について説明してくれるコラム。今回は、腰痛だけでなく下肢の痛み、しびれやまひ、脱力を起こす病気の代表「腰部脊髄神経根狭窄症（ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう）」についてです。



第2腰椎より下部の脊髄神経は、脊髄管内で1本1本馬のしっぽのように分かれ、束になっていることが馬尾神経と呼ばれる

腰部脊髄神経根狭窄症の最も多い原因は加齢
 症状は、腰痛、下肢の痛み、しびれ、まひなど

脊髄管とは脊髄神経が通っているトンネルのよ

うな隙間の部分をいいます。図に示すように脊髄(せきずい)の前方部分の中心である椎体など、後方部分の椎弓、棘(きよく)突起などで囲まれた部位を脊髄管といい、この中を通る脊髄神経を馬尾神経といいます。

腰部脊髄神経根狭窄症の原因はさまざまで、最も多いタイプは加齢が原因の変形性脊椎症。50歳以上に高頻度に見られます。ほかに腰部椎間板ヘルニア、変性すべり症、変性側彎(びやくわん)、手術後などが原因です。

馬尾神経が一つの椎間、あるいは複数の椎間で、物理的な狭窄による圧迫に加え、動作や姿勢などの負荷によって循環障害を伴うと、神経伝達障害が起こります。症状としては間欠跛行(はこ

う)、下肢痛、腰痛、下

く現れず、歩行による両

下肢および陰部や足裏の異常知覚(しびれ、灼熱感、締め付け感)が主体です。時に残尿や頻尿、便秘といった排尿・排便障害である膀胱(ぼうこう)直腸障害を生じます。

外側型では単根性の運動・知覚障害が主体で、片側性が多く、疼痛が主症状で灼熱感などの異常感覚はあまりみられません。

混合型は両方の症状がみられます。また夜間の睡眠時にこもり返りがしばしば起こります。腰痛は馬尾神経の圧迫よりも、脊髄管狭窄に合併する椎間関節症、筋・筋膜性疼痛、仙腸関節症などで生じます。

今回は腰部脊髄神経根狭窄症の診断と治療法について説明しましょう。

詳しくは、梶木病院北区西花尻(086)293)0000まで。

詳しくは、梶木病院北区西花尻(086)293)0000まで。

詳しくは、梶木病院北区西花尻(086)293)0000まで。

詳しくは、梶木病院北区西花尻(086)293)0000まで。